

FUJITSU Software NetCOBOL

ライセンス : Solaris (64bit)

2021年7月20日時点

Solaris (64bit)は、購入製品が開発・運用環境製品か運用環境製品かによってライセンスの考え方、購入方法が異なります。

1. 開発・運用環境製品	2
1.1 開発・運用環境製品を新規に購入する場合	2
2. 運用環境製品	5
2.1 運用環境製品を新規に購入する場合	5
3. 注意事項	7
3.1 ライセンス	7
3.2 クラスシステムにおける製品のライセンス	8

1. 開発・運用環境製品

1.1 開発・運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

開発・運用環境製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、CD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途プロセッサライセンスを購入ください。製品の導入にあたり、1 本以上のメディアパックが必要です。
- プロセッサライセンスは、本製品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下の通りに必要となるライセンスです。
 - シングルコアプロセッサの場合：1 プロセッサあたり 1 本の購入が必要です。
 - マルチコアプロセッサの場合：コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

注) CPU 数、コア数などにより、プロセッサライセンスの数が異なりますので、必要ライセンス数については営業へご相談ください。

物理サーバーや仮想サーバー、オンプレミスやクラウドサービスなど、それぞれの利用形態における必要なライセンス数の算出方法については、「[必要なライセンス数の算出方法](#)」を参照してください。

クラスタシステムにおける開発・運用環境製品のライセンス

Solaris の開発・運用環境製品は、クラスタ構成されたシステムで運用できます。この場合、ご使用になる NetCOBOL シリーズにより、必要となるライセンス数が異なります。詳細は、[クラスタシステムにおける製品のライセンス](#)を参照してください。

開発方法

Solaris では、以下の開発方法があります。

- Solaris 環境で開発/運用する方法
- Windows 環境を利用して開発し、Solaris 環境で運用する方法

Solaris 環境で開発/運用する方法

製品名	用途
NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ(64bit)	大規模基幹システム向けに、高性能データソート・マージ(PowerSORT を組込み)、ビジネス基幹となる帳票出力(注 1)、開発のライフサイクル全般を支援する開発保守支援 (SIMPLIA/COBOL 支援キット)(注 2)が利用可能な総合開発環境

注 1) 画面帳票設計ツールが含まれていないので、Windows 環境配下で画面帳票設計ツール(FORM)を別途購入する必要があります。

注 2) Solaris で開発・保守支援機能として提供しているのは、テスト作成支援とプラットフォーム間の移行支援です。

Windows 環境を利用して開発し、Solaris 環境で運用する方法

Windows 開発環境で提供している NetCOBOL Studio のリモート開発機能を利用して、Windows 環境で開発することができます。この場合、Windows クライアントには、開発するマシンの台数分だけ、Windows 開発環境製品が必要です。また、Solaris サーバには、Solaris サーバの搭載プロセッサ数に応じて、Solaris 開発環境製品のプロセッサライセンスが必要となります。

詳細については、Windows NetCOBOL「NetCOBOL Studio ユーザーズガイド」を参照してください。

なお、Windows 環境の NetCOBOL は、V10.5.0 以降を使用してください。

Windows NetCOBOL V10.5.0 を使用する場合は、Windows 環境の NetCOBOL に Solaris(64bit)対応の修正を適用する必要があります。修正の入手については、弊社の担当営業・SE にお問い合わせください。

開発環境	製品名
Windows (x86)環境	<p>用途に合わせて、以下のいずれかの製品をお選びください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (32bit) • NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit) • NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit) • NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)
Windows (x64)環境	<p>用途に合わせて、以下のいずれかの製品をお選びください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (64bit) • NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (64bit) • NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit)
Solaris (64bit)環境	<ul style="list-style-type: none"> • NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ(64bit)

2. 運用環境製品

2.1 運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

運用環境製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、CD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途プロセッサライセンスを購入ください。製品の導入にあたり、1 本以上のメディアパックが必要です。
- プロセッサライセンスは、本製品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下の通りに必要となるライセンスです。
 - シングルコアプロセッサの場合：1 プロセッサあたり 1 本の購入が必要です。
 - マルチコアプロセッサの場合：コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

注) CPU 数、コア数などにより、プロセッサライセンスの数え方が異なりますので、必要ライセンス数については営業へご相談ください。

物理サーバーや仮想サーバー、オンプレミスやクラウドサービスなど、それぞれの利用形態における必要なライセンス数の算出方法については、「[必要なライセンス数の算出方法](#)」を参照してください。

クラスタシステムにおける運用環境製品のライセンス

Solaris の運用環境製品は、クラスタ構成されたシステムで運用できます。この場合、ご使用になる NetCOBOL シリーズにより、必要となるライセンス数が異なります。詳細は、[クラスタシステムにおける製品のライセンス](#)を参照してください。

製品種別

開発・運用環境製品で作成された 64bit COBOL アプリケーションを動作させるための運用環境製品を用意しています。

開発環境製品	運用環境製品
NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ(64bit)	NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ(64bit)

3. 注意事項

32 ビットアプリケーションを開発および運用する場合は、32 ビット版 NetCOBOL 商品を別途、購入してください。
32 ビット版と 64 ビット版は、同じコンピュータにインストールして利用することができます。その場合は、両方のメディアパックとライセンスをそれぞれ必要数分購入してください。

3.1 ライセンス

「メディア（CD-ROM）」と「ライセンス（使用権）」が分離された形態となっています。NetCOBOL をインストールするサーバマシンに搭載されている CPU 数分のプロセッサライセンスを購入してください。

製品名	説明
メディアパック	CD-ROM 媒体のみの製品です。 メディアパックには、ライセンス（使用権）は添付されておりませんので、別途プロセッサライセンスの購入が必要です。
プロセッサライセンス	動作するサーバマシンに搭載されているプロセッサ数に応じて必要となります。 <ul style="list-style-type: none">シングルコアプロセッサの場合は、1 プロセッサ（COD モデルの場合は CPU RTU ライセンスを持つ 1 稼働 CPU）あたり 1 本の購入が必要です。マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数（COD モデルの場合は CPU RTU ライセンスを持つ稼働 CPU 上のコアの総数）に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントのライセンスについて

- 本製品には、SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントが含まれています。
- SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントは、1 台の Windows クライアントにインストールして使用することができます。
- SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントを複数の Windows クライアントにインストールして使用する場合、追加クライアントライセンスを別途購入する必要があります。

3.2 クラスタシステムにおける製品のライセンス

相互待機形態(Active/Active)で運用する場合は、各サーバに製品を購入する必要があります。ただし、運用待機形態(Active/Passive)で運用する場合は、通常運用時に待機ノードとなっているサーバには運用ノードで購入した製品を使用できます。待機系ノード分のプロセッサライセンスの購入は不要です。通常運用時に待機ノードとなっているサーバには、運用ノードで購入したプロセッサライセンスをご利用ください。